
傷物語【影】

輝きのブライト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傷物語【影】

【Nコード】

N6102Z

【作者名】

輝きのブライト

【あらすじ】

水無月「この物語は、「影法師」の俺と暦が春休みに出会った、ある金髪の吸血鬼との思い出であって、俺がある意味人間を敵に回しちまった、懺悔のような話であり、そんな俺を傍に置いてくれることを約束してくれた最愛の金髪の吸血鬼との惚気話でもあって、現在へと繋ぐ話でもある。」

「永遠なんていわないけど、お前の傍にいたい」

しゃどーヴァンプ01（前書き）

この物語は、最近、パスワードを忘れて化物語（次）の続きである偽物語（次）の続きをかけなくなってしまった作者により書かれています。傷物語（双）の作者である、Brandon様を作者はリスペクトしており、少々内容が被っているかもしれませんが。」

しゃどーヴァンプ01

影法師かげぼうしってヤツをご存知だろうか？

簡単に言っなら、まあ、影かげだ。

俺もまた、その影法師という怪異の一人（？）。

俺は阿良々木暦あらあきみとかいうヤツ（まあ、弟だけだな）の影に潜ひそんでいる。

潜ひそんでいることに色々事情がある。

気にしないで欲しいな。

また機会あれば、誰かが話してくれるに違いないから。

こうして、今俺が居る場所こそが『弟・阿良々木暦の影』だ。

ヤツの中学生時代の悪評あくへいは全て俺のせいである。

残念なやつめ、へっへっへ。

器物破損きぶつはそん（主に相手の自転車とかな。あとはー・・・、・・・忘れた）。

暴行ぼうこう（主に、防衛な。絡まれたときと言うか、胸倉むぐらつかまれたときだけです。ホントだから。ね？信じれくれよ。信じてえ~~~~~！）。

傷害罪（^{しやうがいざい}上に同じ。便利だよなー、これって。）。

まあ、こうして暦の身体にたまーに入れ変わらせていただいて、ヤツの悪評を大きくし続けている。

故意じゃねえけどな（どつちだよ！）。

ていうか、普通見間違えるものなのかねえ？

まず、俺は暦^{マッ}より身長が12cm高い（暦は165cm。晒しちやおーっと）。

アイツの体にどんな影響を与えているかなんて、そんなの俺には関係ない。

よく、「身体検査のとき、入れ替わってくれえー！」なんて言われるけど、正直言います。

オメー、馬鹿かと。

いくらなんでも、怪しむだろうよ。

短期間に身長が妙に高くなってしまったら（ヨーロッパ人であるまいし）。

だが、残念なことに基本的に俺を「引っぱり出す」権限はヤツにある（「戻る」権限は俺が持ってまーす。うへへへ・・・！）。

めんどくせーよな、ホント。

まあ、でれねーこともないんだけどな。

ヤツの影の範囲だけなら。

「お前、出れるんかい!!」なんて突っ込んではいけない。
これが、結構狭いのだ。

ほんべん
本編でのさながら、あの金髪の吸血鬼のように。

これから話すことは、あんまり褒められたことじゃない。
というか、誇れることでもない。

これは、「影法師」かげぼうしなんていゆる怪異の俺の昔話。

そして、俺がはじめてユーレイ的な存在ではなくなつて、「誰かの
大事なナニカ」にしてくれた、俺の主人にして愛しい金髪の吸血鬼
の物語である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6102z/>

傷物語【影】

2011年12月20日15時51分発行